

夏場は暑くて気が緩みがち

8月の防犯対策

令和5年8月1日発行
 (公社)滋賀県防犯協会



住宅侵入の窃盗被害

空き巣や忍込みといった住宅侵入の窃盗被害は、6月末で67件発生しています。特に、夜間家の人が就寝した頃を見計らって住宅に侵入し金品を盗む「忍込み」については、昨年の4倍にも増えています。

昨年8月は無締り箇所からの侵入被害が9割以上

侵入盗の犯人は、気づかれずに手早く楽に侵入できる箇所を探します。当然、第一に狙うのが無締りの玄関戸や裏口、窓などで、それが2階であればエアコンの室外機や雨樋などを足場に伝っていきま



す。毎年、夏場は暑くて開放的になることから、戸締まりなどが非常に無防備となるため、格好の狙い目となります。なんと、昨年の8月は無締り箇所からの侵入窃盗の被害は、全体の9割以上にも上っているのです。

○大事なことは、開放箇所を作らない。

まずは、自宅の玄関戸や裏口、勝手口、1階だけでなく2階の窓なども鍵をかけましょう。暑いからといって網戸で開けっ放しにしたり、「入られたら入られたときや」などという安易な考えは危険です。

犯人はバールやドライバーなどの侵入用具を持っています。家人に見つかつたりしたときは、それを凶器に変えて危害を加え、無理矢理お金を奪い取る強盗に変身するからです。

○防犯機器を活用しましょう。

犯人は、光や音で周囲に気づかれることを非常に嫌います。

「センサーライト」は光で姿を照らされますし、「防犯カメラ」は犯人の行動を記録として残されるので容易に近づくことができません。

また、「窓用防犯アラーム」を窓ガラスに取り付けておけば、窓を割られたり開けられたりしたときに大音量で音が鳴りますし、「窓用補助錠」は窓ガラスを破られたりしても窓が開かないので犯人が困惑して犯行を断念させることができます。

窓ガラスに「防犯フィルム」を貼ることで硝子を割ることができず断念する確率が高まります。

夏休み 子どもたちが

安全に過ごさせますように

子どもに関係する事件事故は、いっどこで発生するかわかりません。常日頃から子どもの防犯意識を高め「危険をいち早く察知し避難する能力」を持たせることが重要です。子どもを事件事故から守るため、地域での子どもの見守り活動や各種防犯活動への積極的なご参加をお願いします。

お父さん、お母さんへ

やはり、家庭での教育が一番大切です。小さいうちから次のことを身につけてください。

① 一人で遊ばない

子どもが犯罪等に巻き込まれるケースで一番多いのは、一人で遊んでいるときです。

② 外出時には必ず行き先を言う

外出時には「誰と」「どこで」「何をするか」「何時ころ帰ってくるか」を言う習慣を身につけましょう。時間を意識することで危険な場所に行ったりすることを未然に防ぐことができます。

③ 知らない人についていけない

「子犬を見せてあげる」「お菓子をあげる」などと言葉巧みに声をかけ、子どもを連れ去る事件も発生しています。

④ 毎日、何があったかを話し合う

危険な目にあっても、叱られることを恐れて黙っている子どももいます。何でも話せるよう親子のコミュニケーションが大切です。



チカン・わいせつ

最近の傾向

- 中学、高校などの学生被害が多い
- 電車内でのチカンが多く発生しており、道路上での発生も目立つ

対策

- 街灯がなく人通りが少ない場所は避けて通しましょう
- スマホに夢中になると周りが見えません。怪しい男性がそばにいないか確認しましょう
- 防犯ブザーは見える場所に付けましょう

★身の危険を感じたらすぐに110番

